

たかそう 連携だより

地域の先生方と
高崎総合医療センターを結ぶ

2022年発行
第190号
11月号



副院長就任のご挨拶 2

副院長 広井 知歳

第27回地域連携症例検討会 3～4

皮膚科：皮膚科医長 上原 顕仁 皮膚科医師 西尾 麻由
形成外科：形成外科医長 中村 英玄

診療科紹介 放射線治療科 5

放射線治療科部長 永島 潤

看護部紹介 6

看護部長 水江 麻紀子

看護災害対策 7

外来看護師長 木村 真弥

栄養だより 8

医師紹介コーナー 9

眼科領域における医療機器共同利用のご案内 10

地域医療連携登録医のご紹介 11

セカンドオピニオンのご案内 12～13

外来診療担当表 14～15

院長閑話/行事などのお知らせ 16

撮影：患者サポートセンター 櫻井 史子

ハッ場ダム

●地域医療支援病院 ●がん診療連携拠点病院

独立行政法人国立病院機構
高崎総合医療センター



〒370-0829 群馬県高崎市高松町36

代表 (TEL) 027-322-5901

URL <https://takasaki.hosp.go.jp/>

地域医療支援・連携センター(医療機関専用ダイヤル)

(TEL) 027-322-5835

(FAX) 027-322-5925

【理念】

患者さんから信頼される病院を目指します

【基本方針】

- 常に患者さん本位の医療を心がけます
- 研鑽に励み、安全で良質な医療を提供します
- 医療連携を積極的に推進し、地域医療に貢献します
- 良き医療従事者の育成に努めます
- 臨床研究を推進します
- 健全な病院経営を行います

【看護の理念】

人間の尊厳を大切にし、専門的な知識、技術を持ち、心のこもった看護を提供します

【患者さんの権利を守ります】

- 誰でも良質で安全な医療を受ける権利があります
- 患者さんの人格や価値観が尊重され、医療提供者との相互協力のもとで医療を受ける権利があります
- 病気、治療等について、十分な説明を受ける権利があります
- 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります
- 病気等について十分な説明を受けたうえで、自分の意志で検査や治療方法を選択したり、他の医療機関を選択する権利があります
- 医療情報に関する個人のプライバシーが守られる権利があります

副院長就任のご挨拶

副院長 広井 知歳



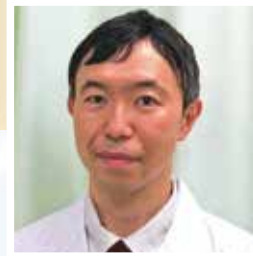
この度、11月1日付けにて副院長に就任しました広井です。日頃、地域の先生や救急隊の方々等、多くの地域医療を支えてくださっている皆様には、並々ならぬご協力を頂き誠にありがとうございます。2011年に当院心臓血管内科に赴任して以来、虚血性心疾患に対するカテーテル治療を専門としながら、不整脈へのアブレーション治療、心不全に対するチーム医療等、地域に貢献できる循環器診療の拡充を目指してきました。昨年度、統括診療部長を拝命してからは、病院が良質な医療を提供すべく組織となるための活動（医療の質向上）、診療報酬改訂への対応、救急隊との密なる連携等への活動を中心に組み立てまいりました。多くの方々にご指導、ご支援いただき、改めて御礼申し上げます。

地域基幹病院の使命の一つとして、地域医療の確保と高度・特殊医療の提供があります。限りある医療資源の中でその両立を図ることは時に困難を伴うものですが、その解決策として重要であるのが地域医療構想の推進と考えられます。間近に迫った超高齢化社会、また、その後訪れると考えられる医療需要の変化に対応するためには、地域全体での病床機能分化が急ピッチで求められると考えられています。2次医療圏という言葉がありますが、ドラスティックに変動する医療現場に対してより柔軟に対応するために、群馬県では2.5次医療圏を設定して、限られた医療資源の有効活用を推進しています。当院は、高崎・安中2次医療圏に属しておりますが、今後はより広域な藤岡保健医療圏、富岡保健医療圏を含めた2.5次西部県域医療圏においてもその役割をしっかりと受け止め、高度急性期医療に注力していきたいと考えております。

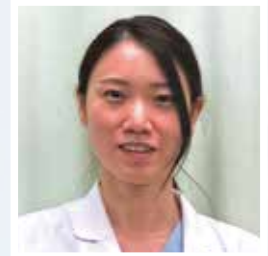
新型コロナウイルス感染の第7波が概ね収束し、国はwithコロナにおいてサブプレッションからミティゲーションへの移行を図っています。2024年4月には医師の働き方改革が施行されます。医療従事者のみならず、国民全体の受療行動の根本的な変化をも必要とする医療環境の変革期を迎えています。この過渡期を医師会の先生、行政の方々、その他多くの医療従事者のご支援、ご協力のもと、市民の皆さんと共に乗り越えていきたいと思っております。まだまだ、若輩者ではありますが、今後ともどうか宜しくお願い申し上げます。

第27回 地域連携症例検討会

皮膚科・形成外科領域疾患の 診断と治療の連携



皮膚科医長
上原 顕仁



皮膚科医師
西尾 麻由

2022年9月20日に第27回地域医療連携症例検討会をWebメインで開催させていただきました。Webでは多くの先生にご参加いただき、また会場には院長先生をはじめ、当院職員の方々にご参加いただきました。誠にありがとうございました。

当科にご紹介いただきました患者さんの経過の報告とともに、当科の診療体制や今後の取り組みについても紹介しました。

以下、発表内容の要旨となります。

平日毎日外来診療をしています。群大病院から茂木精一郎教授を含めた非常勤医師も診察しており、バックアップ体制も整っております。

生検、手術、パッチテスト、入院診療、褥瘡回診も行なっています。生物学的製剤等の新薬治療も行なっています。皮膚腫瘍については紹介先に困る場合や診断や切除マージンの設定、切除縫縮目的ならば、当科へご紹介いただければと存じます。顔面の基底細胞癌など、当科での手術が難しい場合には形成外科へ依頼、協力し治療にあたっております。

ご紹介いただいた症例を20例提示させていただきました。例として①近医内科より紅皮症でご紹介いただき、アトピー性皮膚炎の診断でJAK阻害薬を導入、皮疹とそう痒の改善あり投与継続中の症例、②近医皮膚科にて皮膚生検の結果、右鼻唇溝部の基底細胞癌の所見でご紹介いただき、形成外科へご紹介し切除皮弁形成をしていただいた症例、③近医皮膚科にて水疱性類天疱瘡の疑いでご紹介いただき、全身に紅斑水疱が多発、同診断で当科入院加療した症例などの報告をいたしました。

他院へ紹介している症例として、レーザー・紫外線照射治療、光線検査、带状疱疹ワクチン、高度な全身症状を有し、全身管理を要する膠原病・リンパ増殖性疾患、中毒性表皮壊死症、高度な全身管理を要する気道熱傷・全身熱傷、リンパ節郭清を要する皮膚悪性腫瘍などがあります。

本院の理念・基本方針にのっとり、診療を行っております。皮膚病の予防、治療のための指導を生活面も含めて行います。これからも地域連携に力を入れていきたいと考えております。皮膚科診療を通じて、地域医療に貢献していきたいと考えております。

今後とも、登録医の先生方のお力添えをいただければ幸いです。

ご質問・ご意見・ご要望などありましたら、当科ないし地域医療連携室にご連絡をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

形成外科医長
中村 英玄



形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、機能的、形態的により正常に、より美しくすることによって、患者さんのQOL向上に貢献する診療科です。日本では糖尿病患者さんの増加、維持透析患者さんの増加に伴い、糖尿病性足潰瘍の患者さんが増加しています（図1）。糖尿病性足潰瘍の病因は、①末梢神経障害、②末梢血行障害、③感染症の3つに大きく分けられ、その治療には様々な専門的治療が必要になることも少なくありません。高崎総合医療センターでは2021年より「患者さんの歩行を守ること」を目標に、形成外科、心臓血管内科、内分泌・代謝内科、整形外科、皮膚科、看護師、栄養士、作業療法士、理学療法士、ソーシャルワーカーといった多職種からなるフットケアチームを発足し活動しています。今回の症例検討会では先生方からご紹介頂いた糖尿病性足潰瘍患者さん3例について検討を行いました。

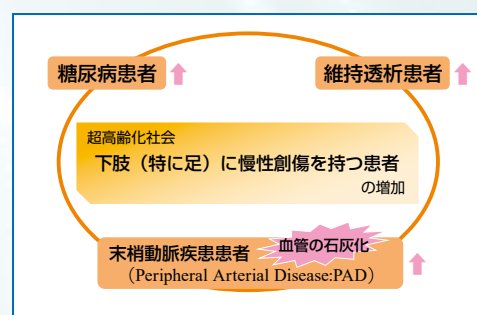


図1

症例① 30代男性。右足趾に潰瘍を形成し、感染を認めたため当院を紹介受診しました。明らかな虚血所見は認められませんでした。①末梢神経障害による胼胝形成から潰瘍を生じ、③感染をきたしたと考えられました。断端形成術を行い創治癒が得られました。自力歩行可能で、胼胝・潰瘍再発予防にインソール作成しています。

症例② 60代男性。左足部の低温熱傷が治癒せず、感染を認めたため当院を紹介受診しました。虚血所見を認め、②末梢血行障害と③感染を合併していると考えられました。心臓血管内科で血管内治療による血行再建を行った後に、デブリードマン、足部切断術、分層植皮術を行い創治癒が得られました。装具を作製し、自力歩行可能です。

症例③ 70代男性。右足部の壊死を認めたため当院を紹介受診しました。足部広範に壊死を認め、小切断での創治癒は望めないと判断し、下腿切断を行いました。歩行維持はできず、車椅子移動をしています。

糖尿病性足潰瘍では末梢血行障害を伴うことが多く、大切断を行うと歩行維持が困難になり、生命予後にも影響することがわかっています（図2）。しかし、症例3のように大切断を余儀なくされる患者も少なくありません。当院では2022年11月から「足の疾患外来」を開設しました。糖尿病性足潰瘍、虚血性足潰瘍だけでなく、地域の足で困っている患者さんに広く貢献できるよう活動を行っていきたくと考えています。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

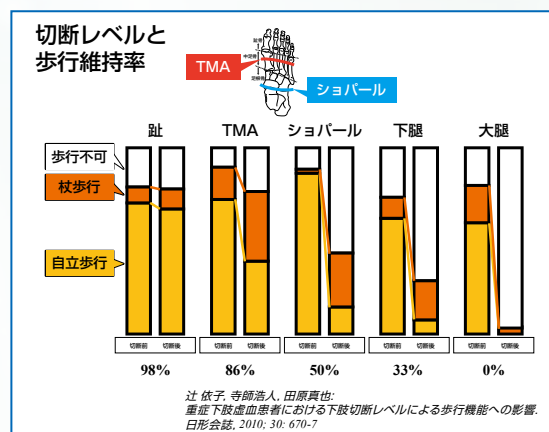


図2

放射線治療科の紹介



放射線治療センタースタッフ

放射線治療センター長
放射線治療科部長 永島 潤

当院の放射線治療センターは、放射線治療科の常勤医師2名（永島、大高）、非常勤医師2名、診療放射線技師7名、看護師2名、受付1名、事務1名で診療しております。

放射線治療は、手術、薬物療法と並ぶ「がん治療」の三本柱の一つです。体に負担が少ない治療法と

して、切らずにがんの治癒をめざす根治的治療から、年齢や合併症等で手術や薬物療法が難しいのがんの治療やがんの症状を和らげる緩和的治療まで幅広く用いられます。がん治療以外にも、甲状腺眼症やケロイド等にも効果が知られており、多くの科と協力して診療しています。

放射線治療は大きく分けると外部放射線治療（外部照射）、小線源治療、核医学治療（内部照射）に分類されます。当院では、外部放射線治療及び小線源治療は放射線治療科が、核医学治療は放射線診断科が担当しています。当センターには外部放射線治療装置（リニアック）が2台、小線源治療装置（ラルス）が1台、治療計画用CTが1台、治療計画装置が9台（外部照射用8台、小線源治療用1台）あります。リニアックが2台以上設置されているのは県内4病院、小線源治療装置が設置されているのは県内3病院のみです。総合病院としての利点を最大限に活かし、合併症等をお持ちの方でも一人ひとりの体調や病状に合わせて、安心して治療が受けられるように体制を整えています。

当院の放射線治療の歴史は古く、前身の国立高崎病院時代に始まり、50年以上経ちました。新病院開院後の2012年3月に放射線治療センターが開設され、現在の体制になりました。強度変調放射線治療（IMRT）や定位放射線治療（SRT・SBRT）、画像誘導小線源治療（IGBT）などの高精度放射線治療を本格導入し今年で10年になります。2021年12月にはリニアックメーカーから1000日連続治療達成を表彰されました。この表彰は、リニアックの精度を維持・管理し、患者さんの治療を中断することなく継続してきた病院に対して贈られるものです。リニアックが2台とも1000日連続治療を達成した病院は国内でもわずか、日々の保守・精度管理の賜物と思っています。

センター開設以来、当院で放射線治療を受けた患者さんは4000人を超えました。欧米ではがん患者さんの半数以上の方が放射線治療を受けていますが、わが国での普及率は30%程度にとどまっているのが現状です。患者サポートセンターと協力して院内の放射線治療関連のパンフレットを増やすなど情報提供に力を入れています。がん診療連携拠点病院として地域の先生方との連携をこれまで以上に強化し、多くの患者さんに放射線治療を受けてもらえるよう、スタッフ一同取り組んでまいります。お困りのことがありましたらいつでもお気軽にご相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。



リニアック1000日連続治療達成 表彰盾

看護部紹介

看護部長 水江 麻紀子



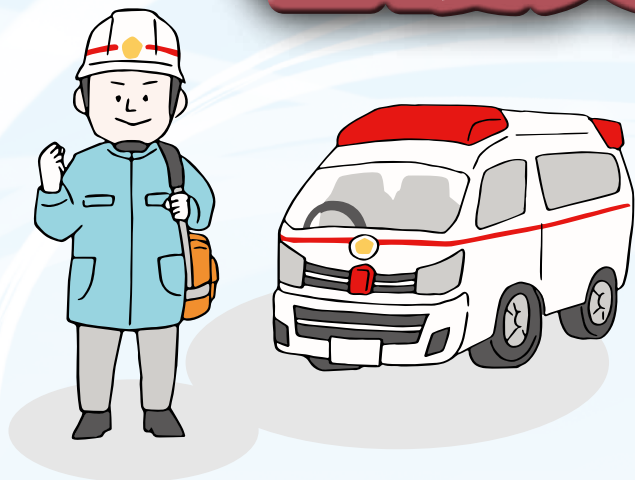
新型コロナウイルス感染症の対応も3年となりました。患者さん受け入れの為の部署の決定、人員配置、など組織体制を変更しました。さらに救急車で搬送された方が陽性であることが多々あり、受け入れ病棟では今まで経験したことがない疾患の看護が要求されます。感染症に対する予防対策だけでなく、安全に患者さんを受け入れられるよう疾患の知識や看護技術など、その都度あがってくる課題に対し看護職員一同で対応し、当院の役割を果たせるよう取り組んでまいりました。

また、コロナにより病院の情報システム化も進み、会議や学会、院内・院外研修などもオンラインが主流となってきました。当院の看護師教育もe-ラーニングを活用したり、1回の研修生を少なくし複数回実施するというように密を避けた教育方法に変えました。教育方法の1つにその日の看護の振り返りを客観的に行うことで学びの質を高めるリフレクションがあります。リフレクションは、国立病院機構の看護師の段階的教育計画の中にも組み込まれている人材育成に効果が高いものとされています。教育内容は変わっていませんが、感染のリスクを下げる行動に徹しているため、気楽にリフレクションする機会が少なくなっているように感じます。院外の状況をみると、オミクロン株は重症化率が低いことと、ワクチン接種率が増加したことで、マスクを外したり、複数人で話しながら食事をしている姿を見かけるようになってきました。それは当然のことと思いながらも急性期で重症の患者さんに対応する病院としてはクラスターを発生させないため、引き続き感染予防に注意を払いながら安心・安全な看護が提供できるようにしていきたいと思っております。

さて、一昨年の連携により、質の高いケアを提供できるジェネラリストの育成についてご紹介させていただきました。認定看護師も増え、また、特定行為研修といった医師のタスクシフトや看護師の質の向上にもつながる研修修了者も4名となりました。現在研修を受けている看護師を含め次年度には7名となる予定です。患者さんやご家族に専門性高い看護ケアが提供できるよう、よりいっそうチーム活動に貢献し活躍の場を拡大していきたいと考えています。

地域医療機関の皆様、地域の方々に貢献できるよう努力してまいります。今後ともご指導、ご支援をいただけますよう宜しくお願い申し上げます。

看護災害対策



外来看護師長 木村 真弥

わが国は、地震や風水害などの自然災害が多発し、1995年の阪神・淡路大震災や2011年の東日本大震災など、被災地では多くの命や財産が奪われてきました。また、自然災害だけではなく、放射線被害による二次災害や地下鉄サリン事件、新興感染症など災害はより複雑化しています。

繰り返される災害を教訓とし、国の政策として災害拠点病院やDMATなどの災害救護チームの設立などの対策が講じられてきました。看護教育としても、看護学校の授業に「災害看護」がカリキュラムに取り入れられ、看護学生時代から災害看護の基礎を学ぶこととなっています。

当院は地域災害拠点病院であり、災害時には多くの被災者を受け入れる役割があります。その役割を果たすため、災害対策委員会では、副院長を委員長として院内全体の災害対策に取り組んでいます。昨年までは新型コロナウイルス流行により、院内全体での訓練の実施が困難な状況でしたが、今年度は机上訓練を9月に実施し、大規模災害訓練を11月に予定しています。他にも、災害救護チームであるDMAT隊員の医師を中心に、年4回の災害研修を実施しています。医師、看護師の他、薬剤師、放射線技師や事務などの多職種が参加し、災害の基礎を学ぶ研修であり、座学に加え、トリアージやトリアージタグの記載など実践的な内容の研修を行っています。

看護部では、各病棟から1名が災害看護リンクナースとして活動しています。災害時に被害が拡大しないよう、病棟内の減災対策として、棚が倒れないように固定されているか、棚の上に物が置かれていないか、車いすやモニターが固定されているか、避難経路の確保などの点検を定期的に行っています。また、災害時における各スタッフの役割を明記したアクションカードの作成や見直しを行い、災害時を想定した机上シミュレーションを実施するなど災害時に備えています。災害時の医療と平時の救急医療は異なることが多く、職員全体での災害医療・看護の基礎知識の共有を行い、日ごろから災害を想定した訓練を行うことで、いざというときに対応できる看護師の育成につなげていきたいと考えています。



豊かな香りと独特の味わいのあるコーヒー。

私たちに至福のひとつときを与えてくれる素敵な飲み物です。

「**カフェイン**」という成分が含まれるために、妊娠中や消化管術後の方は飲み方に注意しなければならぬこともしばしば。

今回は、コーヒーの基礎知識と飲み方の注意点の一部をご紹介します。



コーヒーは赤道をはさんで北回帰線と南回帰線の間の「コーヒーベルト」と呼ばれる熱帯地域で栽培されています。収穫した実は、洗浄・乾燥・選別を行い、各地へ輸出されます。生豆は必ず検疫を受けてから日本に輸入されます。豆の品種や銘柄は様々ありますが、生産の約6割を占めるのはアラビカ種です。ブラジル・サントスやコロンビア・スプレモもそのひとつです。

焙煎度合は浅煎りのライト・ローストから深煎りのイタリアン・ローストまで8段階あります。挽き方も極細挽きから粗挽きまであり、抽出器具によっ

て変えることが美味しさのポイントです。焙煎直後から酸化するため、ハンドドリップする際にうまく豆が膨らまないのは炭酸ガスが抜けている可能性があります。新鮮な豆または粉を冷凍保存しておき、30分程度常温で解凍してから淹れると膨らみやすく、美味しく出来上がります。



栄養成分は焙煎後の豆で糖質40%・脂質20%・たんぱく質15%・クロロゲン酸（ポリフェノール）1.3%・カフェイン1.0%・他です。

コーヒーのカフェインは天然の食品成分でアルカロイドという化合物の仲間です。胃酸分泌作用、利尿作用、交感神経刺激作用があり、妊娠中に高濃度のカフェインを摂取した場合に、胎児の発育を阻害する可能性が報告されています。

一方で、がんや糖尿病、動脈硬化などの予防に有効であるという研究成果も報告され、その効果にクロロゲン酸（ポリフェノール）がもつ抗酸化作用が寄与しているのではないかと注目を集めています。

カフェインは熱に弱く、深煎りになるほど少なくなります。また、極細挽きのようにお湯との接触時間が長いほど溶け出す量が多くなると考えられています。

過剰摂取を防ぐため、コーヒーなどの天然に含まれる量（0.06g/100ml：粉10gお湯150ml）を知ったり、成分表示を確認したりすることで飲み過ぎを予防しましょう。食品添加物としてカフェインを一定量以上添加した清涼飲料水は1本あたりコーヒー2杯分に相当することもありますので、1日に何本も飲まないように気をつけましょう。

妊娠中、授乳中の方はカフェインを取り除いたデカフェ製品を利用するのもひとつです。消化管術後や出産後で久しぶりにコーヒーを飲むときは「深煎り豆の粗挽き、豆の量に対しお湯多め」で、カフェイン抽出量を少なくして飲んでみてはどうでしょうか。もちろん、カップサイズは小さめで。



（参考文献）

- ・カフェインの過剰摂取について：農林水産省 (maff.go.jp)
- ・全日本コーヒー協会 (ajca.or.jp)

医師紹介 コーナー

当センターの
医師を
紹介します!



4月より当院に赴任しています整形外科の加地です。群馬大学整形外科に所属し県内の関連病院を転々としています。

専門は肩関節ですが超音波診療にも力を入れています。一般的に整形外科外来で行われる画像検査といえば、レントゲンで骨の評価をするのが主でした。近年、超音波診断装置(エコー)の目覚ましい発展により、筋肉や靱帯、神経の評価でさえ可能となってきています。

エコーの優れた点は診断だけでなく治療にも活用できることです。痛いところにエコーを当て炎症や神経の絞扼が見つければ、その場で痛みの原因に直接アプローチできます。具体的にはハイドロリリースや神経ブロック等を行います。

ハイドロリリースとは筋肉や神経等を包んでいる全身に存在する膜を、薬液を注射することで剥離(リリース)する手技です。筋肉や神経の癒着による慢性的な痛みやしびれに悩んでいる患者さんは少なくありません。これまではリハビリテーションにより時間をかけて癒着を改善していたところを、エコーを使えば癒着部位を直接薬液で剥離し癒着を解除することができます。

神経ブロックとは痛みの通り道である神経に直接麻酔薬を注射することで痛みを遮断(ブロック)する手技です。神経とはあらゆる痛みの通り道で、例えば手首や足首を骨折しても痛みが神経を通して脳に伝わることで初めて痛みを感じますが、通り道で痛みを遮断することで、これまでの外来では我慢するしかなかった骨折部の整復・固定に伴う痛みを取り除くことができます。もちろん神経痛にも有効ですし、さらには手術時の麻酔としても利用できるので、全身麻酔や下半身麻酔よりも低侵襲な麻酔が可能となり、これまで入院が必須だった手術を日帰りでおこなっていたりもします。

堅苦しい文になってしまいましたが実際の外来ではフランクに振る舞っていますので、今後ともどうぞ気軽によりしくお願い致します。



● 整形外科

かち たくま
加地 卓万

令和4年4月より産婦人科で勤務しております峰村成です。出身は群馬県で、現在に至るまでずっと地元群馬で生活し続けています。昨年までは公立藤岡総合病院で初期研修医として勤務し、産婦人科以外に、内科や外科、救急などで数多くの疾患を学ばせていただきました。

産婦人科に興味をもったのは、初めてお産を見たときに感銘を受けたからです。今も自分が外来で健診させていただいた妊婦さんが無事に出産を迎えられたときの喜びはこの上ありません。また、当院は周産期だけでなく、婦人科疾患や女性のヘルスケアなど多岐にわたって診療しています。様々なライフステージの女性をサポートできることに働き甲斐を感じています。

診療においては患者さんやご家族とのコミュニケーションを大事にし、相談しやすい環境づくりや分かり易い説明を心がけています。まだ駆け出しではありますが、高崎地区の医療に貢献できるよう精一杯精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



● 産婦人科

みねむら なるみ
峰村 成

眼科領域における 医療機器共同利用のご案内

当センターで保有しています医療機器を、地域の医療機関の先生方にもご利用いただけます。患者さんの診療および治療にお役立てください。

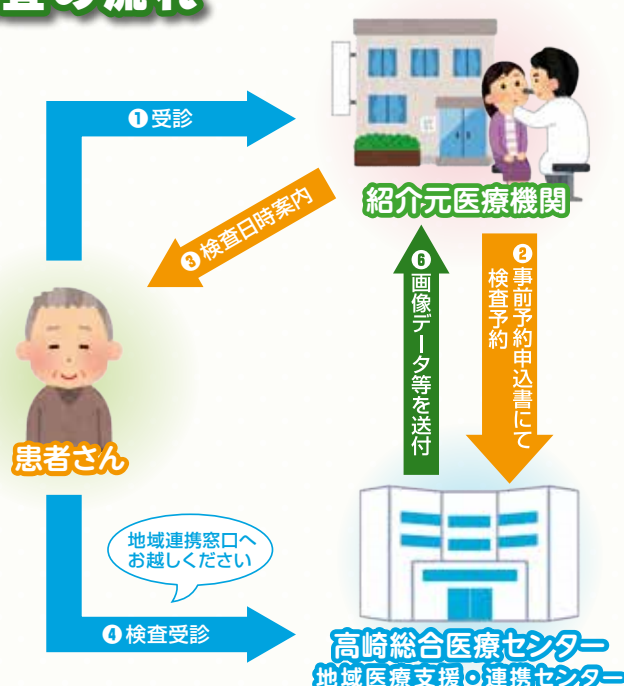
眼科領域の画像検査について

眼科領域における各疑い疾患において、CTやMRIを利用した画像検査によりの確な診断・治療にお役立てください。

画像検査依頼時のお願い

検査依頼時には、疑い疾患を詳細にお伝えいただくことで、当センターでは眼科領域の疑い疾患に合わせた各装置(CT、MRI)の撮影ルーチンを画一化しております。それにより、スムーズで的確な画像診断結果の提供を可能にしておりますので、お問い合わせ時には画像検査依頼内容を担当者にお申し付けください。

検査の流れ



- ① 患者さんが貴院受診。
- ② 貴院より当センター地域医療支援・連携センターへFaxにて、**事前予約申込書**で各検査の予約をお願いいたします。
- ③ 貴院より患者さんへ「検査予約日時」のご案内をお願いいたします。
- ④ 検査当日患者さんは保険証、予約票および紹介状原本を持参し、**地域連携窓口**にお越しいただくようお願いいたします。
- ⑤ 患者さんは、検査終了後に会計しご帰宅ください。
- ⑥ 画像データおよび画像所見はCD等に出力後、郵送いたします。

まずはかかりつけ医にご相談ください

医療機関よりの予約・お問い合わせ

高崎総合医療センター 地域医療支援・連携センター

TEL 027-322-5835 (医療機関専門ダイヤル)

FAX 027-322-5925

地域医療連携登録医 のご紹介

地域医療連携登録医の皆さまと
パートナーシップを組んで診療に取り組んでいます。

高瀬記念病院

院長あいさつ

平成 10 年に高瀬クリニックを開設以来、多くのスタッフ、地域の皆さま、共に地域医療を支える先生方のお力添えのおかげで令和 4 年 5 月より「高瀬記念病院」として新たにスタートする運びとなりました。高度な医療を患者さまに提供できるように診療体制をととのえとともに、地域に根差し、地域に必要とされる病院であり続けられるように、邁進していく所存です。



高瀬記念病院
院長
高瀬 真一

診療科・病院案内

循環器内科・心臓血管外科・消化器内科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(8:30~12:00)	●	●	●	●	●	●	
午後(15:00~18:00)	●	●	●	●	●		

群馬県高崎市南大類町885-2 TEL:027-353-1156

心血管治療を専門に最先端の医療機器を用いて、豊富な知識と経験を基に高度な医療を提供しています。非侵襲的なカテーテル治療は質の高い治療を行っています。迅速な診断とエビデンスに基づいた内服治療を行っています。急性期病棟・療養病棟・特殊疾患病棟があり、急性期から慢性期までの入院治療が可能です。

細谷たかさきクリニック

院長あいさつ

暖かな日差しで木々の新緑も眩しい季節となりました。
まだまだ平常な日々が訪れませんが、本年度も皆様の健康や日々の生活に寄り添うクリニックとして職員一同努めてまいりますのでよろしくお願い致します。



細谷たかさきクリニック
院長
島田 祥士

診療科・病院案内

内科・消化器内科・脳神経内科・外科・歯科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前(8:30~12:00)	●	●	●	●	●	●	
午後(14:00~17:30)	●	▲	●	●	●		

▲ 第3火曜は休診日となります

群馬県高崎市南大類町888-1 TEL:027-352-8181

当院では一般外来・人間ドック・訪問診療を行っています。発熱外来・ワクチン接種・抗体量測定と、コロナ対応も積極的に行い地域医療に貢献出来るよう努めております。

アットホームな雰囲気のクリニックです、お気軽にご相談下さい。

セカンドオピニオンのご案内

当センターではセカンドオピニオン外来を
実施しております。
概要につきましては以下のとおりです。



対象患者さん

- 現在当センター以外の医療機関で診療を受けている患者さん、ご家族
- 現在の主治医（他医療機関）の診断及び治療方針について、当センター医師に参考意見を求め、患者さんご本人が自らの疾患をより理解し適切な診療を選択する等の為に、セカンドオピニオン外来の活用を望む方
- 主治医（他医療機関）からセカンドオピニオンを目的とした紹介状及びフィルム等の検査資料を当院に提供可能な患者さん、ご家族であることを要します（主治医にセカンドオピニオンを受けるための紹介状等をお願いすれば対応してもらえます）
- 相談者をご家族の場合は、原則として患者さんの同意を得た場合といたします

実施診療科

【各科の専門医が対応いたします】

内科、精神科、呼吸器内科、消化器内科、心臓血管内科、小児科、外科
乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、脳神経外科、呼吸器外科、産婦人科
泌尿器科、眼科、放射線診断科、放射線治療科、歯科口腔外科



予約方法

完全予約制 代表電話：027-322-5901

※代表にお電話を頂き、『セカンドオピニオン係』とお申し付け下さい

【受付時間】 月曜～金曜 8時30分～17時の間

※精神科の受付時間は 月曜～金曜 8時30分～12時迄 となります

※事前にご予約電話を受け付け、担当専門医と日程調整を行った後に折り返し
当センターより連絡させていただきます

外来時間

セカンドオピニオン外来時間（診療科によって曜日は異なります）

月曜～金曜 13時30分から15時30分の間で調整

費用

30分以内 5,500円(消費税込み)

30分以上 11,000円(消費税込み)

セカンドオピニオンとは

セカンドオピニオンとは現在の自分の病状や治療方針について他の医師の意見を求めることをいいます。医療が進歩してさまざまな治療法が生まれています。

その結果、医師によって病気に対する考え方が違うことや、病院によって医療技術や診療の質に差があることも考えられます。治療法について具体的な比較ができ、より適した治療法を患者さん自身が選択することができます。

当センターでは、よりよい治療法を患者さん自身が選択できるように、セカンドオピニオンを積極的にお勧めしております。

セカンドオピニオン 外来担当表

科 名	医師名	専 門	曜 日
内 科	佐 藤 正 通	内科全般、血液内科	火
精 神 科	井 田 逸 朗	がんのメンタルヘルス	木
呼 吸 器 内 科	中 川 純 一	呼吸器全般	火、金
消 化 器 内 科	長 沼 篤	消化器病一般、肝臓病	随時
	増 田 智 之	食道、胃、大腸	
心 臓 血 管 内 科	広 井 知 歳	狭心症・心筋梗塞の治療（カテーテル治療）	金
	太 田 昌 樹	不整脈一般	水
	福 田 延 昭	心不全、弁膜症	木
小 児 科	五十嵐 恒雄	小児科全般・未熟児・新生児	水
外 科	坂 元 一 郎	消化器外科全般	水
乳 腺・内 分 泌 外 科	鯉 淵 幸 生	乳がん全般・甲状腺外科	第1・3・5週 金（午前）
	高 他 大 輔	乳がん全般・甲状腺外科	随時
心 臓 血 管 外 科	小 谷 野 哲 也	心臓血管の外科治療	火、木、金
呼 吸 器 外 科	伊 部 崇 史	肺がん、縦郭腫瘍、呼吸器外科全般	木
	高 坂 貴 行	肺がん、縦郭腫瘍、呼吸器外科全般	火
脳 神 経 外 科	田 中 志 岳	脳腫瘍	月
	笹 口 修 男	水頭症、脳外科一般	木
	佐 藤 晃 之	血管障害	金
産 婦 人 科	伊 藤 郁 朗	婦人科腫瘍	月、火、金
泌 尿 器 科	柴 田 康 博	泌尿器科全般	火
眼 科	土 屋 明	眼科全般（眼腫瘍を除く）	水、木
放 射 線 診 断 科	根 岸 幾	画像診断CT・MR中心	木
	佐 藤 洋 一	画像診断CT・MR中心	火
放 射 線 治 療 科	永 島 潤	悪性疾患の放射線治療	
歯 科 口 腔 外 科	稲 川 元 明	口腔顔面痛	火、水、木、金
	薬 師 寺 孝	口腔外科全般、顎変形症、インプラント	月、火、木、金

外来診療担当表

当センターは、地域医療支援病院として運営しております。
かかりつけ医の先生からの紹介状をご持参願います。

	月	火	水	木	金
総合診療科・内科	佐藤 正通 飯塚 堯	佐藤 正通 植原 大介	木村 彰仁 (真下 大和)	佐藤 正通 飯塚 堯 (谷田 史)	佐藤 正通 木村 彰仁
栄養食事指導外来		佐藤 正通			
内分泌代謝内科	渋谷 信行	新井 茉莉 (植原 良太)	植原 正也 新井 茉莉	渋谷 信行	渋谷 信行 植原 正也
神経内科	(池田 雅美) 平柳 公利	平柳 公利 椎名 葵	菊池 雄太郎 平柳 公利	丸山 琴音 (古田 夏海)	清水 一輝
呼吸器内科	中川 純一 神山 花凛	細野 達也 内田 恵	田口 浩平 黒岩 裕也	中川 純一 板井 美紀	細野 達也 内田 恵
消化器内科	長沼 篤 安岡 秀敏 上原 早苗 都丸 翔太 (石原 弘)	星野 崇 鈴木 悠平 佐野 希望 都丸 翔太	柿崎 暁 安岡 秀敏 増田 智之 成清 弘明 (石原 弘)	長沼 篤 増田 智之 鈴木 悠平 (工藤 智洋)	星野 崇 佐野 希望 鍋木 琢也 古澤 愛望 古市 望 (岡野 祐大)
上部内視鏡検査	星野 / 増田 / 成清	安岡 / 増田 / 鍋木	上原 / 佐野 / 都丸	上原 / 佐野 / 都丸	長沼 / 鈴木 / 岡野
心臓血管内科 (循環器)	太田 昌樹 村田 智行 大駒 直也	小林 洋明 高橋 伸弥 (金澤 紀雄)	広井 知歳 太田 昌樹 羽鳥 直樹	福田 延昭 高橋 洋右 千吉 良彩花 (金澤 紀雄)	太田 昌樹 小林 紘生 柴田 悟
新患外来(午前)	高橋 伸弥	柴田 悟	村田 智行	羽鳥 直樹	小林 洋明
心不全予防外来		第2・第4午後			
精神科	井田 逸朗 山崎 雄高	井田 逸朗 山崎 雄高	井田 逸朗 山崎 雄高	井田 逸朗 山崎 雄高	井田 逸朗 山崎 雄高
小児科	五十嵐 恒雄 内田 亨 御任 紫野 (荒川 篤康)	五十嵐 恒雄 倉田 加奈子 坂本 康大 (神尾 綾乃)	五十嵐 恒雄 倉田 加奈子 佐藤 幸一郎 (滝沢 琢己)	倉田 加奈子 植原 実紅 柴塚 拓巳 (西澤 拓哉)	五十嵐 恒雄 佐藤 幸一郎 永井 裕介 (浅見 雄司)
小児外科		(西明・高澤慎也)	(西明・高澤慎也)		
外科 (消化器)	坂元 一郎 田中 成岳	小川 哲史 星野 万里江	岡田 幸士 生方 泰成	平井 圭太郎 牛久保 陸生	宮前 洋平 井田 晃頌
栄養サポート外来		小川 哲史			
禁煙外来					
ストーマ外来			第2, 4週午後・予約	予約	

1 外来診療受付時間

8:30～11:00迄 (予約の場合は最終予約時間まで)

※再来受付機は8:00から受付しています

- 紹介状をお持ちの方、紹介事前予約の方は、1番：紹介状をお持ちの方・地域医療連携窓口で受け付けております。
- 当センター受診にはかかりつけ医の先生からの紹介状をご持参ください。紹介状をお持ちでない方は、診察をお受けできない場合や、長時間お待ちいただく場合がございます。
- 受診時にはお薬手帳、薬剤情報提供書または飲んでいるお薬をご持参ください。

2 休診日

土、日、祝日、年末年始

- 学会等により、休診または医師が交替する場合があります。院内掲示をご覧ください。



地域医療支援・
連携センターから
地域の先生へお願い

当センターへの紹介の際は、
地域医療支援・連携センターを通した
事前予約にご協力下さい。

	月	火	水	木	金
泌尿器科	井上雅晴 栗原聰太 午前	栗原聰太 柴田康博 午前	交代制	柴田康博 井上雅晴 午前：通院/午後：不妊外来	交代制
疼痛緩和内科	田中俊行 鯉淵幸生 午前	田中俊行 鯉淵幸生 午前	田中俊行 鯉淵幸生 午前	田中俊行 田野美里 第2、4週午後 (荻邊恵子) 第1、3、5週午後	田中俊行 高他大輔 午前
乳腺・内分泌外科	徳田尚子 成澤瑛理子 午前	高他大輔 徳田尚子 午前 成澤瑛理子 午後	高他大輔 徳田尚子 午前	交代制 午前：予約	徳田尚子 成澤瑛理子 第1、3、5週午前 第2、4週午前
心臓血管外科	<手術日>	交代制 午後	<手術日>	小谷野哲也 羽鳥恭平 午前 午後	茂原淳 午前
呼吸器外科	<手術日>	伊部崇史 高坂貴行	<手術日>	伊部崇史 高坂貴行	<手術日>
整形外科	荒毅 信太晃祐 遠藤史隆	大澤敏久 齋藤健一 加地卓万	荒毅 信太晃祐 一ノ瀬剛 加地卓万	新井厚 遠藤史隆 <手術日>	大澤敏久 齋藤健一 一ノ瀬剛
形成外科	<手術日>	中村英玄	中村英玄	中村英玄	交代制
脳神経外科	田中志岳 (井上千鶴) 午前	栗原秀行 上原顕仁 午前 (茂木精一郎) 第2、4週午前	<手術日> 上原顕仁 午前 西尾麻由 午前	笹口修男 上原顕仁 午前 西尾麻由 午前	佐藤晃之 上原顕仁 午前 西尾麻由 午前
皮膚科	伊藤郁朗 黒住未央 東杏莉	青木宏 黒住未央 大枝涼平	<産後健診>	峰村成 (金井眞理) 午前 午後	伊藤郁朗 青木宏 東杏莉
産婦人科	伊藤郁朗 黒住未央 東杏莉	青木宏 黒住未央 大枝涼平	<産後健診>	伊藤郁朗 (金井眞理) 午前 午後	伊藤郁朗 青木宏 東杏莉
遺伝性腫瘍外来	伊藤郁朗 黒住未央 東杏莉	青木宏 黒住未央 大枝涼平	<産後健診>	伊藤郁朗 (金井眞理) 午前 午後	伊藤郁朗 青木宏 東杏莉
眼科	土屋明 紹介・予約	土屋明	土屋明	土屋明	土屋明
眼形成眼窩外科	笠井健一郎 <手術日>	笠井健一郎 <手術日>	笠井健一郎	笠井健一郎 <手術日>	笠井健一郎
耳鼻いんこう科	高橋克昌 岡宮智史	岡宮智史	<手術日>	高橋克昌	高橋克昌 岡宮智史 午前
放射線治療科	永島潤 大高建 紹介・予約 紹介・予約	永島潤 大高建 紹介・予約 紹介・予約	永島潤 大高建 弓崎晃 午前 紹介・予約 紹介・予約	永島潤 大高建 紹介・予約 紹介・予約	永島潤 大高建 富澤建斗 午前 紹介・予約 紹介・予約
歯科口腔外科	柴野正康 紹介・予約	<手術日>	薬師寺孝 紹介・予約	薬師寺孝 柴野正康 紹介・予約 紹介・予約	<手術日>
新患外来	薬師寺孝 紹介・予約	<手術日>	柴野正康 紹介・予約	交代制 紹介・予約	<手術日>
歯科（歯科麻酔） 摂食嚥下・口腔ケア外来	稲川元明 木村将典 倉持真理子 第1、3、5週のみ、紹介・予約 紹介・予約 紹介・予約	稲川元明 倉持真理子 (荒井亮・辻野啓一郎) 紹介・予約 第2、4週のみ、紹介・予約	稲川元明 木村将典 倉持真理子 紹介・予約 紹介・予約 紹介・予約	稲川元明 木村将典 紹介・予約 紹介・予約	稲川元明 倉持真理子 紹介・予約 紹介・予約

() の医師は非常勤です。

令和4年11月1日現在

3 予約について

当院は「医療機関からの紹介患者事前予約制」をとらせていただいております。

医療機関様にはお手数をおかけしますが、予約の際には「事前予約申込書」に必要事項を記載し、地域医療支援・連携センターへFAXにてご依頼ください。折り返しお電話で予約日時の連絡をさせていただきます。

※分娩希望についてはこの限りではありません。

※心臓血管内科は平日8:30～11:00までに紹介状を持参のうえ来院していただきますと当日受診が可能です。

※消化器内科で早めの対応が必要な患者さんは平日11:00～15:00までに紹介状を持参のうえ来院していただければ対応させていただきます。(予定での紹介が可能な患者さんは地域医療支援・連携センターを通しての予約をお願いします。)

4 連絡先

高崎総合医療センター内 地域医療支援・連携センター

医療機関専用ダイヤル：027-322-5835 《平日 8:30～18:30／土曜日 8:30～17:15》

FAX：027-322-5925 《FAXは24時間受け付けています。お返事は翌営業日になります》

「共視」や「自画像」からみた日本人

院長閑話

vol.20



病院長 小川 哲史

先月のこのコラムで「男の顔は履歴書か」と題して、肖像画や人物の顔について書きました。今回は絵画などからみた日本人についての話です。精神科医であり、作詞家でもある北山修氏は、日本の絵画からみた日本人の感性、愛のかたちについて以下のように考察しています。

浮世絵などに代表される日本の絵画の中には、母子像が描かれているものが多数あるが、お互いに見つめあっているものはほとんどなく、何か同じものを一緒に眺めているものが多い。そして、その対象は桜の花や夕焼け、ホテルなど美しくはかないものである。この「共視」こそ日本人に共通する安定した感覚、立ち位置で、日本人における心の安らかな状態というのは、美しいものが消えてゆくという「はかなさ」と併存していて、「粋」の美学や「もののあわれ」に繋がる感性だと言っています。同氏作詞の「あの素晴らしい愛をもう一度」の歌詞にも「同じ花を見て美しいと言った二人の…」とあり、これこそ北山氏が考える日本人の愛のかたちです。

このように、私たち日本人が一般的に思い描く、良き夫婦や恋人たちの構図は、夕焼けや静かな海を並んで見ている二人の後ろ姿、のような感じだと思います。ところが、欧米人における愛のかたちを考えると、「風と共に去りぬ」や「カサブランカ」の映画ポスター（クラーク・ゲーブルとビビアン・リー、ハンフリー・ボガードとイングリッド・バーグマン）のように、至近距離でお互いを見つめあい、また、男性が上から押し掛かるような構図が思い浮かびます。日本人にとっては、どうもこの構図は心地よくない気がします。

また、西洋の絵画では、ゴッホやレンブラントに代表されるように、画家自身が非常にたくさんの自画像を描き、そして広く世に知られています。しかし、日本人の画家はほとんど自画像を描かない、あるいは残っていないため世の中に知られていません。自画像を描くということは、描く自分と描かれる自分を分離して、自己を観察し、分析し、再構成して個性・特徴を際立たせる作業であるため、日本に自画像が少ないのは、私たち日本人は集団の中の一員であることを好み、画一的で、個人の主張や多様性に興味がない（寛容でない？）ことが理由の一つだと思います。でも、そもそも日本人は、絵画でも写真でも顔縁の中の自分を見るのは居心地悪いと感じるのかも知れません。ゴッホの42点もの自画像は、全てゴッホが最も個性的な作品を残した最後の5年間に描いたということは、その特異性との関連を考えると興味深いです。

一方、文学の世界では、自分自身が経験したことを素材にした小説である私小説は、欧米より日本でより広く発展しました。文化における表現の方法や手段などに関して、日本人の特徴や欧米人との相違などを、歴史や地理的なことを含めて文化人類学的に考えるのは楽しそうで、老後の趣味には持って来いだと思います。

(11月10日)

INFORMATION

行事などのお知らせ

高崎総合医療センター
公式Facebook

●第30回地域連携症例検討会

『総合診療科内科領域疾患の 診断と治療の連携』

日時：2022年12月16日(金) 18:45～20:00

演者：高崎総合医療センター

総合診療科内科部長 佐藤 正通

総合診療科内科医師 植原 大介

総合診療科内科医師 飯塚 堯

総合診療科内科医師 木村 彰仁

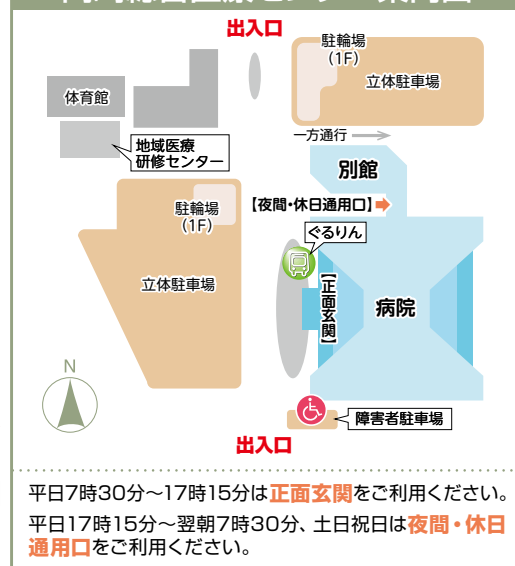
対象：医療従事者

高崎総合医療センターよりWEB配信

※申し込み必要



高崎総合医療センター案内図



編集室より

登録医の先生方からのご寄稿・ご意見をお待ちしております。
地域医療支援・連携センターまでご連絡をお願い致します。

電話 027-322-5835 (医療機関専用ダイヤル)



独立行政法人・国立病院機構

高崎総合医療センター